

機関番号：11301
 研究種目：基盤研究(B)
 研究期間：2007～2010
 課題番号：19320009
 研究課題名(和文) リグヴェーダ翻訳研究

研究課題名(英文) Rigveda: German translation and research

研究代表者

後藤 敏文 (GOTŌ TOSHIFUMI)
 東北大学・大学院文学研究科・教授
 研究者番号：40215497

研究成果の概要(和文)：インド最古の讃歌集『リグヴェーダ』(前1200年頃)のドイツ語全訳計画(ヴィッツェル教授と共編)中、研究代表者の担当分(全体の約半分)について作業した。四年間にリグヴェーダ全10巻を四巻に分けて出版する予定であったが、取り組みの深化、出版社の移転などの事情から、第一巻(I-II)の出版を見るに留まった。第二巻(III-V)は校正中、第三巻(VI-VIII)は原稿作成中であり、全巻完成には3-4年を要する見込みである。研究の基礎作業として『古インドアーリヤ語歴史文法』を英語で作成、間もなく出版される。

研究成果の概要(英文)：The task shares a German translation project of the *The Rig-Veda*, the earliest Indian hymns collection redacted about 1200 B.C., by Witzel (Harvard) and me. During these four years we could publish Vol.1 (*Rig-Veda* I-II), in which I translated and annotated I 94-191, II 35, and wrote the glossary to the volume; Vol. 2 (III-V, I am in charge of Book IV) is now under the publisher's redaction; manuscripts for Vol. 3 (VI-VIII, I deal with Book VII) are under preparation. The whole project will be accomplished in three or four years. *Old Indo-Aryan morphology and its Indo-Iranian background* which I wrote as a basic tool for researches will soon be published by Austrian Academy of Sciences.

交付決定額

(金額単位：円)

	直接経費	間接経費	合計
2007年度	2,300,000	690,000	2,990,000
2008年度	2,100,000	630,000	2,730,000
2009年度	1,700,000	510,000	2,210,000
2010年度	1,800,000	540,000	2,340,000
年度			
総計	7,900,000	2,370,000	10,270,000

研究分野：インド学, インド・ヨーロッパ語比較言語学

科研費の分科・細目：印度哲学・仏教学

キーワード：リグヴェーダ, インド学, 印欧語比較言語学, 宗教, 神話, ヴェーダ, 讃歌, 祭式

1. 研究開始当初の背景

インド最古の文献『リグヴェーダ』はインド・ヨーロッパ語族の遺したまとまった文献としても最重要資料の一つであり、人類史の

理解に欠かせない意義を持つ。しかし、原文は難解であり、人類の共有財産として翻訳を提供することも容易ではない。現在標準的に用いられる全訳は、ゲルトナー(マールブル

ク)によって1920年代に完成され、1951年に出版されたドイツ語訳である。その後最近まで引き続き出版された英語、ロシア語、日本語、フランス語などによる近代語全訳あるいは抄訳は、全体としてゲルトナー訳の理解の上に立っていると言える。その後およそ80年の間にインド・ヨーロッパ語歴史文法の成果を中心に達成された研究成果の蓄積は、今日新たな全訳を可能かつ必要としており、折しもドイツの大手出版社グループが世界の宗教文献を網羅するシリーズを計画し、第一冊目としてリグヴェーダの翻訳を要請してきた。同門のヴィッツェル教授(ハーヴァード大学)とともにドイツ語による全訳と解説とを引き受け、他の研究者の参加をも得て全四巻で出版することとした。この中、研究代表者による分担部分の遂行に本助成金の援助を受けるものである。

2. 研究の目的

『リグヴェーダ』全10巻(アウフレヒトによる定本で923頁)をドイツ語に翻訳し、注解を付す。全四巻を予定。最新の学的水準を反映すべく努め、かつ、古代の宗教、社会、生産等を理解するための基礎資料を、解りやすく信頼できる形で提供する。その中、研究代表者は第I巻後半(94-191)、第II巻第35讃歌、第IV巻全体、第VII巻全体、第X巻の約半分を担当し、全体の編集、企画、語彙集・術語集作成を担当する。出版時の頁数にして全体の約半分に当たるこれらの作業のために助成を受ける。

3. 研究の方法

担当部分について、原典に忠実なドイツ語訳を作成し、必要な注解を付す。解釈に直接必要なものについては二次文献をも記録収録する。特に、インド・ヨーロッパ語比較言語学の分野における重要な成果を盛り込み、検証可能な正確性を追求するとともに、ドイツ語で理解可能な翻訳と注記その他を作成する。常に参照する「工具」としては、アウフレヒトによる原典出版第2版(1877)、ゲルトナー訳(1920年代、1951年出版)、グラースマン辞書(1872-1875)、ヴァッカーナーゲルとデブルンナーによる『古インド語文法』((1896-), オルデンベルク(19世紀末-20世紀初め)、ルヌー(20世紀中頃を中心)の諸研究、マイルホーファー語源辞典(1986-1997)などが挙げられる。さらに、ホフマン、ナルテン、ゴトー、シェーファー、キュンメル等の動詞研究、スカルラータによる語根名

詞複合語研究など、比較的最近の諸研究を活用する。

4. 研究成果

(1) 第1巻(リグヴェーダ第I巻、第II巻)をヴィッツェル(ハーヴァード)、ドーヤマ(大阪)、ヤジッチ(ザグレブ)の分担によって刊行した(2007)、→次項[図書]②。対象の重さから、書評が出揃うにはさらに数年懸かるものと思われるが、マイルホーファー(ウィーン)は *Historische Sprachwissenschaft (Historical Linguistics)* 121 (2008 [2010]), 300-305 に書評を寄せ、「ヴェーダ学、インド・イラン学、印欧語比較言語学の巨匠二人の手になる今後数十年に亘るリグヴェーダ研究の基盤」と評している。

(2) 同第2巻(リグヴェーダ第III, IV, V巻)の原稿を完成。現在校正中。研究代表者は第IV巻全体の翻訳・注解と語彙集とを担当し、編集全般を監督した。第II巻をヴィッツェルが、第V巻をスカルラータ(チューリヒ)が担当した。

(3) 同第3巻に向け、現在第VII巻(ヴァエシシュタの巻)の翻訳・注解を進めている。出版社の移転、責任者の交代に際しては、2009年秋に当時の社長、校正責任者を訪ねて打ち合わせ、今後の編集により一層大きく関わることを確認した。

(4) 『リグヴェーダ』はインド最古の文献であり、後続する文献に見られる言語の基盤となっていると同時に、それらと大きく隔たる古風な言語によって遺されている。また、インド・ヨーロッパ語比較言語学においても、他の言語の諸文献を遙かに凌ぐ重要性をもつ資料である。その価値は言語に留まらず、生活実体、世界観の理解についても重要である。特に、今日まで続くといっても過言ではないインド・ヨーロッパ語族の拡大の背景にある理念、経済原理を確認する上でも、第一級の史料である。しかし、『リグヴェーダ』をはじめとするヴェーダ語を総括的に扱う文法書としては未だにマクドネル(1910)が用いられ、ヴァッカーナーゲルの創めた、より学術的かつ詳細な文法(1896-)は名詞部分までの完成に留まっている(1957まで)。しかし、その後の研究の進展は新たな水準に達している。特に、ヴェーダ語研究の中心はインド学からインド・ヨーロッパ語比較言語学の分野に移り、その中で達成された成果は、新たな概観を可能にする段階にあると判断

し、今後の研究の基礎となる歴史文法を簡潔に英語でまとめた。幸い、オーストリア・アカデミー出版局から高い関心をもって向えられ(因みに、厳しい査読あり)、現在出版のための事務手続中である、→次項[図書]①。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文](計13件)

① Gotō, Toshifumi, The Rigveda Dictionary from a modern viewpoint, *From Past to Future: Graßmann's Work in Context. Graßmann Bicentennial Conference, September 2009*, ed. by H.-J. Petsche, A.C. Lewis, J. Liesen, S. Russ, 査読なし(校閲あり, 招待発表記録), Basel 2011, pp.363-376.

② 後藤敏文, 資料 ヴェーダ文献に見られるプルーラヴァス王と天女ウルヴァシーの物語, 『愛の神話学』, 篠田知和基編, 名古屋(楽瑯書院), 査読なし, 2011年3月, pp.435-480.

③ 後藤敏文, 資料『リグヴェーダ』アパーム・ナパート「水たちの孫」讃歌, 『水と火の神話「水中の火」』篠田知和基編, 名古屋(楽瑯書院), 査読なし, 2010年3月, pp.421-430.

④ Gotō, Toshifumi, *Asvín- and Nṛsatya- in the Rigveda and their Prehistoric Background, Linguistics, Archaeology and Human Past in South Asia*, ed. by T. Osada, 査読なし(招待発表記録), New Delhi (Manohar) 2009, pp.199-226.

⑤ 後藤敏文, 「業」と「輪廻」ーヴェーダから仏教へ, 北海道印度哲学会『印度哲学仏教学』24号(2009年10月), 査読あり, 招待講演記録, pp.16-41.

⑥ Gotō, Toshifumi, Notizen zu den Verben in Yasna 9 (Hōm-Yašt), *Protolanguage and Prehistory. Akten der XII. Fachtagung der Indogermanischen Gesellschaft, vom 11. bis 15. Oktober 2004 in Krakau*, herausg. von R. Lühr und S. Ziegler, 査読なし(学会記録), Wiesbaden 2009, pp.160-181.

⑦ Gotō, Toshifumi, Der Optativ *bhṛjyēyur* in den Yajurveda-Saṁhitās, ケレンス教授65歳記念論集 *Zarathushtra entre l'Inde et l'Iran*, 査読なし(招待論文), Wiesbaden 2009, pp.107-

113.

⑧ 後藤敏文, 古代インド文献に見る天空地, 『天空の神話ー風と鳥と星』篠田知和基編, 名古屋(楽瑯書院), 査読なし, 2009年3月, pp.107-125.

⑨ 後藤敏文, 山田智輝, 永ノ尾信悟, ヴェーダ時代のサラスヴァティー河をめぐる, 総合地球環境学研究所2007年度成果報告書『環境変化とインダス文明』, 長田俊樹編, 査読なし, 2009年, pp.115-118.

⑩ Gotō, Toshifumi, *Reisekarren und das Wohnen in der Hütte: śālām as im Śatapatha-Brāhmaṇa*, エリザレンコヴァ教授追悼論集 *Indologica. T. Ya. Elizarenkova Memorial Volume*, Book 1, 査読なし(招待論文), Moscow 2008, pp.115-125.

⑪ 後藤敏文, 古代インドの祭式概観ー形式・構成・原理ー, 『総合人間学叢書』第3巻, 東京外国語大学 アジア・アフリカ言語文化研究所, 査読なし, 2008, pp.57-102.

⑫ 後藤敏文, 荷車と小屋住まい: ŚB śālām as, 印度学仏教学研究 55-2 (2007年3月), 査読あり, pp. 809-805, Abstract 55-3 (同) pp.1263f.

⑬ 後藤敏文, *śraddhā-*, *crēdō* の語義と語形について, 印度学宗教学会『論集』34 (2007), 査読あり, pp.578-561.

[学会発表](計6件)

① 後藤敏文, アパーム・ナパート『水たちの孫』再考, 日本印度学仏教学会, 2010年9月9日立正大学。

② Gotō, Toshifumi, The Rigveda Dictionary from the today's viewpoint of the research, グラースマン生誕200年記念学会, 2009年9月17日ポツダム大学・スチューテン大学。

③ Gotō, Toshifumi, Vedische Befunde zur Einwanderung der Āryas, Indogermanische Gesellschaft (印欧語学会)ーインド・ヨーロッパ語族の拡大。言語学, 考古学, 遺伝学からの諸仮説ー, 2009年9月25日ヴェルツブルク大学。

④ Gotō, Toshifumi, On the Mārtāṇḍa myth in Rigveda X 72, 第14回国際サンスクリット学会, ヴェーダ学部会, 2009年9月2日京都大学。

⑤ Gotō, Toshifumi, Grammatical irregularities in

the Rigveda, Book IV, 第14回国際サンスクリット学会, 言語部会, 2009年9月3日京都大学。

⑥ 後藤敏文, 部族の火の東進 — 『ヴェーダ』の神話, 儀礼とその歴史的背景 (現実—神話—儀礼), 印度学宗教学会, 2008年6月8日 宮城学園女子大学。

〔図書〕 (計2件)

① Gotō, Toshifumi, *Old Indo-Aryan morphology and its Indo-Iranian background*, Österreichische Akademie der Wissenschaften, Philosophisch-Historische Klasse, Sitzungsberichte, Veröffentlichungen zur Iranistik. Herausgegeben von G. Fragner und Velizar Sadovski. Wien (オーストリア学士院紀要) 2011 (印刷中) 217頁。

② M. Witzel, T. Gotō, E. Dōyama, M. Jazić, *Rig-Veda. Das heilige Wissen. Erster bis zweiter Liederkreis*. Aus dem vedischen Sanskrit übersetzt und herausgegeben von Michael Witzel und Toshifumi Gotō unter Mitarbeit von Eijirō Dōyama und Mislav Ježić. Verlag der Weltreligionen, Frankfurt a.M., 2007年9月, 899pp. (研究代表者の担当は 167–347, 636–780 (: I 94–191 訳, 注解), 409–412, 813–816 (: II 35), 825–855 (語彙集), 856–860 (文法学修辞学用語解説)。

〔その他〕

ホームページ等

参考:

<http://www.sal.tohoku.ac.jp/indology/goto-gyouseki.html>

6. 研究組織

(1) 研究代表者

後藤 敏文 (GOTŌ TOSHIFUMI)

東北大学・大学院文学研究科・教授

研究者番号: 40215497

(2) 研究分担者

()

研究者番号:

(3) 連携研究者

()

研究者番号: